

―内閣府に入府した決め手は何ですか？

●知久平 内閣府の具体的な業務に興味があるというよりは、複数省庁の所掌分野にまたがる複合的な課題に対して、横ぐしを指す「総合調整」という、内閣府のミッションに共感して入府しました。

●関 官庁訪問したときに、職員が魅力的だな、一緒に働きたいなと感じたのが一番の理由です。また、知久平さんからもお話があった「総合調整」が内閣府の役割の一つですが、業務説明会で説明を聞いたときに正直何かよくわからなくて、実際に自分の目で見て、体験してみたいと思ったのも、理由の一つです。

●菊池 学生時代の留学中に、性的指向・ジェンダーアイデンティティに関し、自身の知識量がかなり乏しく、意識も粗末であるとともに、日本の取組が遅れているのではと痛感した経験がありました。そこで、どの省庁が所管しているんだろうと思い調べてみたところ内閣府だとわかったのをきっかけに、内閣府を志望しました。最終的には、官庁訪問の面接を行う中で、面白い職員の方が多いなと思い、入府を決めました。

―内閣府でどのような業務をしているか教えてください。

●菊池 政府広報室では、内閣府に限らず、政府全体として広報すべき政府としての重要施策について広報を実施していて、内閣府ならではの業務だなと思っています。電車に乗るときに、自分が調整を頑張った広報の動画が流れていると、本当に流れている！と嬉しかったり、身の周りにあるデジタルサイネージとかを見えるようになったり、他の省庁の広報にも気づいたり、生活の中での視野が変わったなと思うことがあります。普段の業務の中では、最若手の1年目の職員として、細かい雑務は可能な限り自分で行おうと意識していますが、ある程度裁量もち、割と自由に仕事をさせてもらっています。

●関 1年目の企画調整課では「広く浅く」。全省庁から内閣府あてに照会が来るので、

その内容が内閣府内のどの部局に関係があるかを判断して、内閣府の内と外を繋ぐやり取りをする仕事をしていました。印象に残っているのは、骨太の方針や経済対策の府内の取りまとめで、大変だったけれども、貴重な経験になりました。

●菊池 企画調整課の同期から、大変という話を聞きます。

●関 1日に届くメールの量が膨大で、どう対応したら良いのか途方に暮れていた時期もあったのですが、終わってみたら内閣府内の部局について、どこで何をやっているかが大体わかるようになったので、勉強になりました。修行でしたね。2ポスト目の沖縄では「狭く深く」。沖縄政策に関する企画立案を行っていて、最近では会議を開催し、議題の設定から資料の作成まで携わり、無事開催できたときには、達成感に満ち溢れました！

●知久平 1〜2年目は経済財政運営担当の経済対策・金融担当班で、経済対策の取りまとめや金融政策関係の仕事をしていました。係員の仕事は基本ロジ（※ロジスティクス略。スケジュール管理等手続的な業務を指す業界用語で、各省から来る膨大な連絡をさばくことが主な仕事内容でしたが、サブ（※サブスタンス略。内容に関わる業務を指す業界用語）の仕事も多くさせてもらえて、大臣への説明に使う資料を作ったり、金融政策関連では日本銀行にも行ったり、エコノミストの方にヒアリングに行ったりと貴重な経験ができました。現在は、計量分析室という部署にいて、日本の今後10年程度の経済・財政・社会保障の展望を示す「中長期の経済財政に関する試算」の作成公表に携わっています。経済対策・金融担当班は日々走り回るような仕事でしたが、今は全く違って、国会対応もほとんどなく、とにかく年2回の試算に向けて、勉強し続ける日々を過ごしています。試算では、マクロ経済を推計する人、財政面を推計する人というように分担して推計作業を行っています。それぞれの担当者がかなり主体性をもって仕事をしているので、その分責任は大きいですが、やりがいを感じています。

●関 知久平さんは、大学で経済を専攻して

1年目（令和6年入府）

菊池 恵末 Kikuchi Emi

大臣官房政府広報室企画担当主査付

令和 6年 採用
現職



2年目（令和5年入府）

関 美乃 Seki Yoshino

政策統括官（沖縄政策担当）付
参事官（企画担当）付主査付

令和 5年 採用
大臣官房企画調整課総括係
令和 6年 現職



3年目（令和4年入府）

知久平 諒 Chikudaira Ryo

計量分析室

令和 4年 採用
政策統括官（経済財政運営担当）付
参事官（経済対策・金融担当）付
令和 6年 現職



1〜3年目が
リアルを
語る

CROSS TALK

※ 2025年1月収録

いたわけではないと思いますが、業務の中で勉強されているんですか？

●知久平 もともと、経済財政関係の業務を希望したわけではなく、たまたま振出し（※キャリアにおける最初のポストを指す業界用語）が経済系の経済対策・金融担当班だったということなのですが、今では、これからも経済関係の業務を経験していきたいなと思っています。経済は一から勉強していますが、いろいろな人に教えてもらいながら、楽しくやっています。

―実際に入府して、内閣府にどのような印象を持っていますか？

●知久平 例えば、過度な上意下達とか、そういった古いしきたりが無いフラットな組織で、若い役所ならではの良さがあるのかなと思います。

●関 部局によって、全然雰囲気が違うなと思います。企画調整課にいたときに、いろいろな部局に電話をかけていましたが、背後の音が違う（笑）。

●菊池 部局を構成する人によって、部屋の雰囲気が変わりますよね。今の政府広報室は、他省庁の方はいらっしやるのですが、地方自治体からの出向者がいないので、今後、自治体出向者も含めて、いろいろな方と一緒に仕事をしてみたいです。

―内閣府で働くやりがいについて、教えてください。

●菊池 内閣府で働き始めてから、国会のニュースなどを自分ごととして見るようになりましたし、国全体に影響を与える仕事をしているというのは大きなやりがいです。内閣府内にはいろいろな仕事がありますが、何でも自分が面白いと思うように意識すれば、やりがいを持てるんじゃないかなと感じています。

●関 私も、日本がこのように動いていると実感をもって感じられることには、やりがいを感じています。例えば、政府の会議開催のニュース一つとっても、会議を開催するまでどれだけの人が頑張ったんだろうとか、会議を踏まえて、この先どのように政策が動いていくのかなど、背景や意義について、深く考えるようになりました。

●知久平 経済財政政策や共生社会政策、沖縄政策、また最近では経済安全保障など、多様な業務に携わる機会があるというのは、内閣府ならではの魅力だと感じています。また、内閣府は、内閣官房と共に内閣を直接支える中でスピーディーに結果を出すことが求められる役割もあれば、「知恵の場」として中長期的な時間軸で、複数省庁にまたがる政策課題の本質を分析し、新たな視点を提供する役割もあり、一見矛盾するような役割を両立して持っている難しさはあるのかもしれませんが、だからこそ、チャレンジングなことができるのかなと考えていて、それが魅力というか、やりがいになるかなとは思っています。

―今後内閣府でどのように成長していきたいですか？

●菊池 内閣府職員として、内閣府内はもちろん、各省庁の取組も理解している職員になりたいです。上司は、相談を持ち掛けると、「これはここに聞けばよい」など、ぱっと細部まで把握している方が多いので、自身もいろいろなことを深く理解している職員になりたいという理想はあります。あとは、せっかくなので内閣府ならではの、多岐にわたる仕事を経験してみたいです。

●関 同じく、内閣府にはせっかくなんな部局があるので、様々なことを経験してみたいです。業務で経済関係のデータを使うこともあるので、経済をわかっていた方がよいと思います。将来的には、経済部局の仕事も経験してみたいと思っています。また、1回くらいは出向をして、内閣府の外から内閣府を見てみたいです。

●知久平 経済部局に限らず、いろいろなところに行ってみたいです。また、色々なことを勉強して、インプットを増やし続けていきたいです。